

国語 第6学年 物語を読んで、人物の生き方について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：人物の生き方について、印象に残った表現と出来事を関係付けて考え、意見を共有する。人物への賛否だけで終わらず、言葉の表し方が読み手の考えにどう関わるかも確かめる。C(1)オ・C(1)カの学習として、生き方についての意見文。出来事、着目した表現、考え、交流後の追記を分け、変えた点と残した点の理由を書く。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、人物の生き方について文章を読んで自分の考えをまとめ、意見を共有して考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：生き方についての意見文を残す。出来事、着目した表現、考え、交流後の追記を分け、変えた点と残した点の理由を書く。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：主題の言葉だけを答える。本文の表現を離れて理想の生き方を話す。これについて、出来事と印象に残った表現を対応させ、そこからどんな人物の姿を考えたと記す。交流では根拠が違う意見を取り上げ、同意しなくても新たに確かめた点を残す。〔知識及び技能〕(1)クとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この人物の生き方について考えるとき、どの出来事と表現を大事にしましたか。友達の考えを聞いて見方はどう広がりましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：生き方についての意見文は紙に記録できる。出来事、着目した表現、考え、交流後の追記を分け、変えた点と残した点の理由を書く。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：光村版と本文の題名表記をそろえてよいか。

返し：使用する教科書の題名を保持する。この版は東京書籍の表記と全9時間、〔知識及び技能〕(1)クとC(1)オ・カに合わせ、表現への着目を明示している。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この人物の生き方について考えるとき、どの出来事と表現を大事にしましたか。友達の考えを聞いて見方はどう広がりましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

